

2023年2月改訂(第1版)

日本標準商品分類番号

872614

貯法：30℃以下

殺菌消毒剤

承認番号 16100AMZ00894

有効期間：3年

日本薬局方

販売開始 1949年1月

オキシドール

オキシドール シオエ

Oxydol SIOE

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

瘻孔、挫創等本剤を使用した際に体腔にしみ込むおそれのある部位には使用しないこと〔空気塞栓を起こしたとの報告がある。〕〔11.1.1 参照〕

3. 組成・性状

3.1 組成

販売名	オキシドール シオエ
有効成分	100mL 中 過酸化水素 (H ₂ O ₂ :34.01) 2.5～3.5 w/v%
添加剤	安息香酸、アセトアニリド、エタノール

3.2 製剤の性状

販売名	オキシドール シオエ
性状	無色澄明の液で、においはないか、又はオゾン ようのにおいがある。 放置するか、又は強く振り動かすとき、徐々に 分解する。 酸化剤又は還元剤と接触するとき、速やかに 分解する。 アルカリ性にするとき、激しく泡だつて分解 する。光によって変化する。

4. 効能又は効果

- 創傷・潰瘍の殺菌・消毒
- 外耳・中耳の炎症、鼻炎、咽喉頭炎、扁桃炎などの
粘膜の炎症
- 口腔粘膜の消毒、齶窩及び根管の清掃・消毒、歯の
清浄、口内炎の洗口

6. 用法及び用量

〈創傷・潰瘍〉

原液のままあるいは2～3倍希釈して塗布・洗浄する。

〈耳鼻咽喉〉

原液のまま塗布、滴下あるいは2～10倍（耳科の
場合、時にグリセリン、アルコールで希釈する）
希釈して洗浄、噴霧、含嗽に用いる。

〈口腔〉

口腔粘膜の消毒、齶窩及び根管の清掃・消毒、
歯の清浄には原液又は2倍希釈して洗浄・拭掃する。
口内炎の洗口には10倍希釈して洗口する。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分
に行い、異常が認められた場合には使用を中止するな
ど適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

11.1.1 空気塞栓（頻度不明）

循環動態に異常を認めた場合など空気塞栓が
疑われる症状がみられた場合は、速やかに本剤
の使用を中止し、適切な処置を行うこと。

〔2.参照〕

11.2 その他の副作用

	頻度不明
口 腔	口腔粘膜刺激 ^{注)}

注) 連用により発現することがある。

14. 適用上の注意

14.1 薬剤使用時の注意

- 14.1.1 外用にのみ使用し、内服しないこと。
- 14.1.2 眼に入らないように注意すること。入った場合には
水でよく洗い流すこと。
- 14.1.3 易刺激性の部位に使用する場合には、正常の部位に
使用する場合よりも低濃度とすることが望ましい。
- 14.1.4 深い創傷に使用する場合は希釈液としては注射用水か
滅菌精製水を用い、水道水や精製水を用いないこと。
- 14.1.5 長期間又は広範囲に使用しないこと。

15. その他の注意

15.2 非臨床使用に基づく情報

長期大量経口投与によりマウスの十二指腸に腫瘍
の発生が認められたとの報告がある。

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

過酸化水素から生じるヒドロキシラジカルにより
細胞膜、DNAなどが損傷を受ける。発泡による機械的
清浄化作用がある¹⁾。

18.2 抗菌作用

使用濃度において、グラム陽性菌、グラム陰性菌、
酵母、ウイルスに有効であるが、その作用は緩和で
持続性がない¹⁾。

19. 有効成分に関する理化学的知見

一般的名称：過酸化水素（Hydrogen Peroxide）

化学名：Hydrogen Peroxide

分子式：H₂O₂

分子量：34.01

性 状：無色澄明な液体であり、においが
ないか、又はわずかににおいがある。

20. 取扱い上の注意

本剤は光によって変化する
ので、遮光した容器に入れ
密栓してなるべく冷所に
保存すること。

22. 包装

500mL (ポリボトル)

23. 主要文献

- 1) 第十八改正日本薬局方解説書 廣川書店. 2021 :
C-1215 - C-1219

24. 文献請求先及び問い合わせ先

シオエ製薬株式会社 製品情報担当

〒661-0976

兵庫県尼崎市潮江 3 丁目 1 番 11 号

TEL 06 (6470) 2102

FAX 06 (6499) 8132

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元

シオエ製薬株式会社

兵庫県尼崎市潮江 3 丁目 1 番 11 号

26.2 販売

日本新薬株式会社

京都市南区吉祥院西ノ庄門口町 14